

機関番号：32620

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20592514

研究課題名（和文）医療事故低減のためのメンタルチェックリストの開発

研究課題名（英文） Development of Mental check list for medical error

研究代表者

広沢 正孝（Hirosawa Masataka）

順天堂大学・スポーツ健康科学部・教授

研究者番号：60218831

研究成果の概要（和文）：本研究は、看護師の医療事故と関連する精神状態を明らかにし、このような精神状態を把握するためのメンタルチェックリストを開発することを目的とした。そのために、看護師 1,258 名を対象とした医療事故と精神状態に関する質問紙調査とインシデントレポートを記入した看護師に対する面接調査を実施した。その結果、医療事故と関連する主な精神状態は、離人症状と抑うつ症状であることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to determine the mental states associated with medical errors among nurses and to develop a mental check list to grasp these mental states. We carried out questionnaire and interview. 1258 nurses completed questionnaires which included scales regarding mental states and questions regarding medical errors. Nurses who reported experiences of medical errors in the questionnaire, participated in further questionnaire and interview. These results showed possibility that symptoms of depersonalization and severe depression are notable mental states which related with medical error.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,600,000円	480,000円	2,080,000円
2009年度	1,000,000円	300,000円	1,300,000円
2010年度	900,000円	270,000円	1,170,000円
年度			
年度			
総計	3,500,000円	1,050,000円	4,550,000円

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学 基礎看護学

キーワード：医療事故・メンタルヘルス・看護師・離人性障害・解離性障害

1. 研究開始当初の背景

ストレスフルな職業の1つであるという看護師では、メンタルヘルスの保持増進は健康管理上の課題の1つである。なぜなら、看護師のメンタルヘルスは、彼ら個人の健康状態のみならず医療事故や医療サービスの質にも影響を与えることが明らかにされているか

らである。しかし、看護師の精神状態と医療事故との関連を明確化した研究は少なく、どのような状態である場合に本人や周囲が医療事故をも範疇に入れて精神状態の改善に対応を行う必要があるかは明らかではない。そこで、医療事故につながり得る精神症状を明確化し、早期発見が可能となれば、職場単

位でのメンタルヘルス悪化への取り組みが可能となり、看護師のメンタルヘルスの悪化に伴う医療サービスの質の低下や医療事故による医療費の発生を防ぐことが可能になる。

2. 研究の目的

医療事故に関連しやすい精神状態を明確化し、これを基にチェックリストを作成することを目的とする。

3. 研究の方法

①都心の大学付属病院と大都市近郊の大学付属第2病院の2院を対象とし医療事故の経験と精神状態に関する質問紙調査を実施した。質問紙は、職務ストレス尺度 Cambridge Depersonalization Scale (CDS)、Dissociative experience scale (DES)、Zung self-rating depression scale (SDS)、Eating attitude Test-26 (EAT)、職務・生活に対する満足度、医療事故(インシデント・アクシデント)に関する事故認知・事故報告書記入回数)に関する質問で構成された。1,258名より回答を得た。

②都心の大学病院にて、インシデントレポート記入者に対して、精神状態に関する質問紙調査を実施した。306名より回答を得た。質問紙は、Cambridge Depersonalization Scale (CDS)、Dissociative experience scale (DES)、Zung self-rating depression scale (SDS)、Maudsley

Obsessional-Compulsive Inventory (MOCI)、職務・生活に対する満足度、医療事故(インシデント・アクシデント)に関する事故認知・事故報告書記入回数)に関する質問、ストレスコーピングに関する質問で構成された。

③ ②のインシデントレポートと質問紙調査の結果を解析するとともに、記入者に対して事故の状況や SCID に基づいて精神状態について面接調査を実施した。

4. 研究成果

①対象者の平均年齢は 28.58 歳(SD=6.62)、勤務年数は 5.87 年(SD=5.75)であった。自己認識によるインシデントの平均回数は 1.40 回(SD=2.68)、アクシデントの平均回数は 0.46 回(SD=1.39)であった。インシデントレポートの記入回数は 0.78 回(SD=1.11)であった。CDS、DES、SDS、EAT について、それぞれの平均値、標準偏差、カットオフポイントを上回った者の頻度は表1の通りであった。

職務とインシデントレポートの記入との関連が認められた項目は、職場(外来勤務者よりも病棟勤務者において高頻度(P<0.001))、職位(主任・師長よりも役職の無い看護師において高頻度(P<0.001))であった(表2)。また、インシデントレポート記入者と非記入者において、各尺度の合計得

点と、下位尺度の得点を比較した結果(t-test)、有意な差が認められたのは、CDS 合計得点(P<0.01)とその下位尺度の Anomalous Body Experience (P<0.01)、Emotional Numbing (P<0.05)、Anomalous Subjective Recall (P<0.05)、Alienation from Surroundings (P<0.001)、および SDS 合計得点(P<0.01)であった(表3)。

表1. 各尺度の平均値、標準偏差、頻度

尺度	平均値	SD	カットオフポイント	%
CDS	12.92	22.79	≥60	4.20
DES	6.96	9.01	≥30	4.40
SDS	45.56	8.03	軽度40-49	46.18
			中程度50-59	26.46
			重度≥60	4.46
EAT	4.78	6.97	≥20	3.86

表2. インシデントレポート記入の有無による各項目の比較

	記入有 N=402 (55.76%)	記入無 N=319 (44.24%)			
年齢: M (SD)	29.82 (7.21)	27.18 (5.64)	^a 5.37		P=n.s.
勤務年数: M (SD)	6.75 (6.50)	4.62 (4.72)	^a 4.91		P=n.s.
職場					
外来	73.60%	26.40% ^b	20.1		P<0.001
病棟	51.69%	48.31% ^c	2.60 (1.70-4.00)		
職位					
職位無	53.08%	46.92% ^b	16.1		P<0.001
主任・師長	76.19%	23.81% ^c	0.36 (0.21-0.60)		

a: t test, b: χ^2 test, c: Odds, M: mean Rate (95%CI)

表3. インシデントレポート記入の有無による各尺度の比較

		記入 無	記入 有	t値 (p)
Total CDS	M	10.65	15.83	-3.228
	(SD)	(20.52)	(25.15)	(0.001)
Anomalous Body Experience	M	2.19	3.77	-3.273
	(SD)	(6.00)	(7.81)	(0.001)
Emotional Numbing	M	2.21	3.18	-2.342
	(SD)	(5.81)	(5.90)	(0.019)
Anomalous Subjective Recall	M	2.47	3.28	-2.168
	(SD)	(4.95)	(5.70)	(0.030)
Alienation from Surroundings	M	3.23	4.70	-3.553
	(SD)	(5.29)	(6.62)	(0.000)
Total DES	M	6.51	7.55	-1.808
	(SD)	(8.62)	(9.47)	(0.071)
DES_absorption	M	9.19	10.23	-1.447
	(SD)	(11.22)	(11.45)	(0.148)
DES_amnesia	M	4.18	4.80	-1.167
	(SD)	(8.08)	(8.90)	(0.243)
DES_depersonalization	M	4.72	5.63	-1.520
	(SD)	(9.09)	(10.16)	(0.129)
Total SDS	M	44.96	46.35	-2.738
	(SD)	(8.07)	(7.91)	(0.006)
Total EAT	M	4.83	4.72	.236
	(SD)	(7.44)	(6.31)	(0.814)

②対象者の平均年齢は 26.27 歳 (SD=4.15) であった。各尺度の平均値、標準偏差、カットオフポイントを上回った者の頻度は表 4 の通りであった。

尺度	平均値	SD	カットオフポイント	%
CDS	9.64	17.15	≥60	2.29
DES	5.84	9.42	≥30	2.94
SDS	44.80	7.24	軽度40-49	52.61
			中程度50-59	23.53
			重度≥60	1.96
MOCI	7.23	4.34	≥13	11.11

③対象者の平均年齢は 25.18 歳 (SD=3.95) であった。医療事故と関連する要因は様々であったが、職場環境とその時の状況などを除き医療事故と関連が推測される精神状態は、離人、抑うつ、ADHD、没頭（解離の一部）であった。これらの状態は、疾患の基準を満たすレベルでなくても医療事故を引き起こす状況を誘発し、また多忙、人員不足などの状況下において自己努力によって事故の発生を回避しにくい傾向が認められた。また、症状が重度の場合にも、当然医療事故は引き起こされるが、これらのケースでは医療機関への受診や上司からの指示によって仕事量が軽減されていたり、周囲からのサポートが得られていることが多かった。また、本人自身も、仕事上のミスでメンタル面の不調が原因として自己認知するあるいは、「事故を起こしてしまうかもしれない」という認識があり、周囲に頻りに確認を求めたり、ノートに記入したりするという対処行動が認められた。一方、症状が軽度または中程度で本人および周囲の者がメンタル面の不調を認識できていない場合には、予期できないミスや事故を頻りに起こし、さらに不調に陥る傾向が訴えられた。

メンタル面の不調の原因としては、多忙、職場環境によるものの他に、新人看護師では入職後の理想と現実の不一致への直面、その後は配置転換によるものが考えられた。また、離人、抑うつは事故を起こしたことを契機に引き起こされたり、症状が重くなる場合も認められ、事故が発生した後には更なる事故の誘発を防ぐという意味においてもメンタル面への配慮が必要であると思われる。一方、事故時の職場の状況では、多忙、コミュニケーション不足、思い込みなどが医療事故と関連していると思われた。多くのケースでは、医療事故の原因としてメンタル面の影響が強く関連しているかについて、CDS や SDS といった尺度を利用しなが

ら面接することで有る程度把握可能であると考えられた。

④今後の展望

今後の展望として、当該年度内に検証が終了しなかったチェックリストの妥当性の検証が必要である。また、医療事故の原因には多くの要因が関連している。そこで、どのような医療事故が精神状態と関連するのか、また医療事故と関連するような精神状態に陥る要因についても検討が必要であると考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

Hirosawa Masataka, Sugiura Miyuki., Okada Aya、Depersonalization disorder; A hidden psychopathology related to medical errors – retrospective investigation of ten nurse cases.、Japanese Journal of General Hospital Psychiatry, 21、2009、 32-43

[学会発表] (計 3 件)

① Miyuki Sugiura, Masataka Hirosawa, Hideko Aida, Aya Okada, Motoki Mizuno, Yasuyuki Yamada, Kawata Yujiro, Hiroshi Ihara, Yukihiro Kobayashi、Relationship between depersonalization and experience of filling out incident report、The 9th pan-pacific conference on ergonomics、平成 22 年 11 月、Ambassador Hotel Kaohsiung, Taiwan

② Miyuki Sugiura, Masataka Hirosawa, Aya Okada, Hideko Aida, Yasuyuki Yamada, Motoki Mizuno、Association between depersonalization and medical errors among Nurses、The 1st East Asian Federation Symposium –Ergonomic Trends from the East-、平成 20 年 11 月、University of Occupational and Environmental Health (UEOH), Japan

③ Sugiura Miyuki, Hirosawa Masataka, Yamada Yasuyuki, Nishi Yasunobu, Tanaka Sumio, Kawata Yujiro, Mizuno Motoki、Relationship between depersonalization symptoms and eating disorder among Japanese nurses、2008 AHFE International Conference,

Conference、平成 20 年 7 月、Caesars Palace,
Las Vegas, Nevada USA

〔図書〕(計 3 件)

① Miyuki Sugiura, Masataka Hirosawa, Hideko Aida, Aya Okada, Motoki Mizuno, Yasuyuki Yamada, Kawata Yujiro, Hiroshi Ihara, Yukihiro Kobayashi、Relationship between depersonalization and experience of filling out incident report、CRC press (Taylor & Francis Group)、(in Ergonomics for all) 平成 22 年 11 月、pp533-537、総 5 頁

② Miyuki Sugiura, Masataka Hirosawa, Hideko Aida, Aya Okada, Motoki Mizuno, Yasuyuki Yamada, Kawata Yujiro, Hiroshi Ihara, Yukihiro Kobayashi、Relationship between depersonalization and self-perceived medical errors、CRC press (Taylor & Francis Group)、(in Ergonomic Trends from the East)、平成 22 年、pp.167-172、総 6 頁

③ Miyuki Sugiura, Masataka Hirosawa, Yasuyuki Yamada, Yasunobu Nishi, Sumio Tanaka, Motoki Mizuno(Masaharu Kumashiro ed.) Taylor & Francis Group CRC、Relationship between depersonalization syndrome and medical malpractice among Japanese nurses (in Promotion of Work Ability towards Productive Aging)、平成 21 年、pp.299-302、総 4 頁

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計◇件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

広沢 正孝 (Hirosawa Masataka)
順天堂大学・スポーツ健康科学部・教授
研究者番号：60218831

(2) 研究分担者

水野 基樹 (Mizuno Motoki)
順天堂大学・スポーツ健康科学部・准教授
研究者番号：2036 0117

(3) 連携研究者

井原 裕 (Ihara Hiroshi)
獨協医科大学・医学部・教授
研究者番号：50322165

小林 弘幸 (Kobayashi Hiroyuki)
順天堂大学・医学部・教授
研究者番号：50245768

會田 秀子 (Aida Hideko)
順天堂大学・保健看護学部・教授
研究者番号：40258976